

認知症介護実践者研修
学習成果の実践展開と共有
ガイドライン
(参考資料)

令和3年6月作成版

認知症介護研究・研修センター

はじめに

認知症介護実践者研修（以下、実践者研修）では、単に知識を得るだけではなく、研修で学習した成果を現場で実際に応用し、その経験をもとに振り返りながら、実践に活用できる技術として修得することを目指します。

「学習成果の実践展開と共有」は、前期研修での学びを踏まえて自施設・事業所において実践した際の気づき等を共有する科目として位置づけられ、単独した科目ではなく、前期研修での学び・実践を踏まえて後期研修へとつなげる科目となります（図1）。

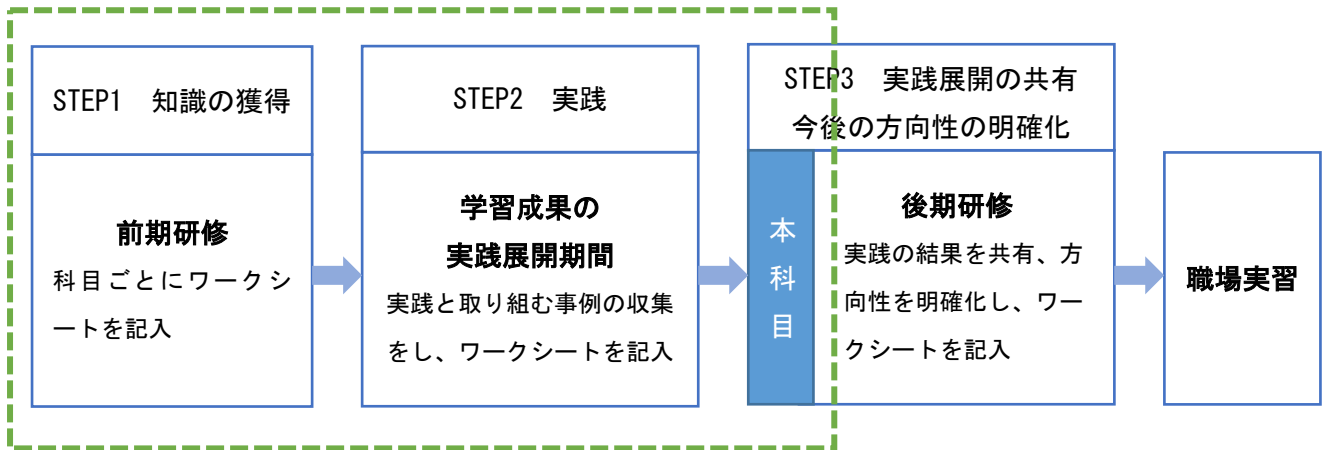


図1「学習成果の実践展開と共有」の位置づけ

前期研修では、自己課題を設定し、各科目での学びやSTEP2の自施設・事業所における実践（学習成果の実践展開期間）で実践したいことをワークシートに記入します。それを踏まえて、学習成果の実践展開期間では、実際に実践をし、その記録と感想をワークシートに記入します。後期研修の科目「学習成果の実践展開と共有」で実践した結果等を他の受講生と共有し、気付いたこと等をさらにワークシートに記入します。加えて、学習成果の実践展開期間では、職場実習で取り組む事例を収集し、そして、実践者研修全体での学びを活かして、職場実習に取り組みます。

本ガイドラインは、実践者研修の「学習成果の実践展開と共有」の科目について、標準シラバスに基づき科目を企画・運用する際の参考資料として示すものです。なお、標準シラバスに示されている目的・到達目標・概要等を共通認識されたうえで、企画・運用されることが望まれます。

※本ガイドラインは、認知症介護指導者に「学習成果の実践展開と共有」とその前後の科目をどのように関連付けて実践者研修を組み立てればよいかの案を示すものであり、この資料の通りに進めることを義務付けるものではありません。

※ワークシートは、指導者が実践者研修で活用する場合は、そのまま活用していただいて結構です。その場合は、認知症介護研究・研修センターが制作したものであることを示してください。一部改編して利用する場合は、認知症介護研究・研修センターが制作したものを一部改編した資料であることを示してください。その場合、「©認知症介護研究・研修センター」の表記は、削除してください。

I 後期研修「学習成果の実践展開と共有」までの流れと進め方

後期研修の「学習成果の実践展開と共有」については、以下の流れで進めることを想定しています。図2とあわせて確認ください。

1. 前期研修

(1) 「認知症ケアの理念・倫理と意思決定支援」

これまでの自分自身のケアを振り返り、実践者研修での自己課題を設定します。

(2) 「生活支援のためのケアの演習1」

この科目での学びを振り返り、自施設・事業所において認知症の人とコミュニケーションを行う上で実践してみたいことを設定します。

(3) 上記以外の科目

各科目、授業後に学びの振り返りを行い、自施設・事業所において実践してみたい認知症ケアを設定します。

2. 学習成果の実践展開期間

(1) 認知症の人本人の声を聴く（シラバス p7 内容1）

- ・前期研修中に設定した認知症の人とコミュニケーションを行う上で実践してみたいことを自施設・事業所において実践します。
- ・認知症の人とコミュニケーションを行った結果と結果からの学びを記録します。

(2) 事例収集（シラバス p7 内容2）

- ・前期研修中に設定した実践してみたい認知症ケアを自施設・事業所において実践します。
- ・認知症ケア実践を行った結果と結果からの学びを記録します。

(3) 職場実習で取り組みたい事例

- ・前期研修中に設定した実践してみたい認知症ケアを実践し、事例を収集してみて、職場実習で取り組んでみたいと思った事例を2つと取り組んでみたい理由を記入します。

※学習成果の実践展開の期間は、各研修実施主体の判断で設定します。

3. 後期研修「学習成果の実践展開と共有」（シラバス p7 内容3）

学習成果の実践展開期間中に実践した際の気づきや疑問等を「学習成果の実践展開と共有」の科目の中で他の受講生と共有し、学びを深め、自分自身の認知症ケア実践上の課題や取り組みの方向性を明らかにします。

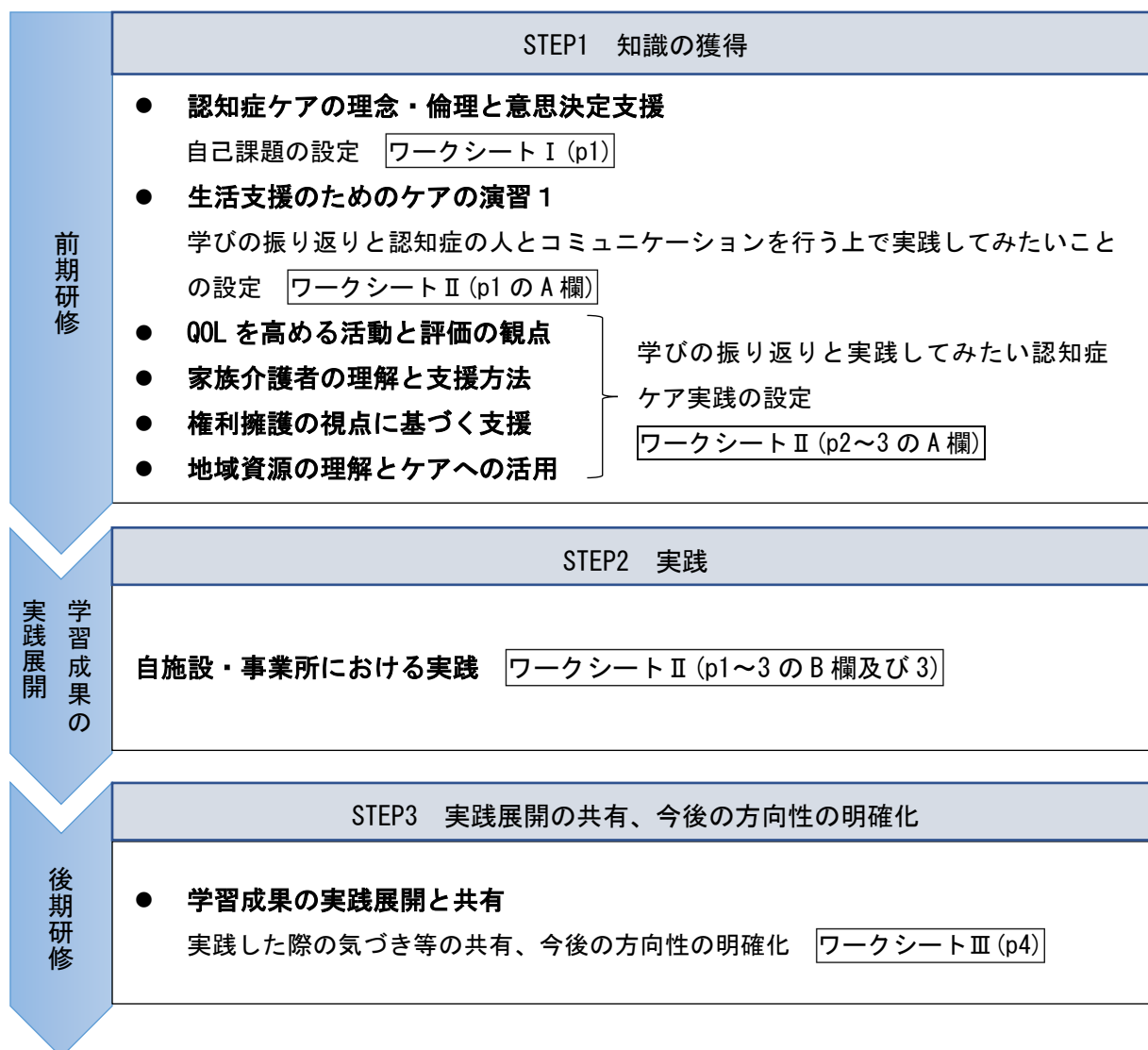


図2 後期研修「学習成果の実践展開と共有」までの流れとワークシートとの対応

II ワークシートの活用方法（別紙参照）

ワークシートは、以下のような活用方法が考えられます。以降、太字の **UD** 書体に下線を引いて表記している箇所は、ワークシートの見出しとなります。

1. 「I.『認知症ケアの理念・倫理と意思決定支援』自己課題の設定」

- 「認知症ケアの理念・倫理と意思決定支援」の科目で、これまで受講生自身がどのようなケアを行ってきたか振り返る際に活用することが考えられます。振り返ったことを踏まえて、実践者研修での自分自身の課題は何か考え記入する欄も設けています。この演習は、30分程度を想定しています。宿題として記入してくることも考えられます。

2. 「Ⅱ. 前期研修の科目のレビューと学習成果の実践展開」

A欄 は授業後に記入し、B欄 は職場に戻っているときに記入します。

(1) 「1. 『生活支援のためのケアの演習1』のレビューと実践展開の記録・感想」

- A欄 は、学んだことの整理及びこれまでの自分自身の認知症ケアを振り返り、学びと実践をつなげて考えることをねらいとしています。「生活支援のためのケアの演習1」の科目で学んだことや認知症の人とコミュニケーションを行う上で実践してみたいことをレビューとして記入する等の活用方法が考えられます。記入に設ける時間は、10分程度を想定しています。レビューとは別としたり、宿題として記入したりすることも考えられます。
- A欄 に学んだことを記入する際には、授業名のみやキーワードのみを記入するのではなく、具体的に学んだことを記入することが大切です。

不適切な例) 家族介護者の理解と支援方法
権利擁護

- B欄 は、A欄 に記入した実践してみたいことを職場で実践した場面を思い出し、自分や相手の言葉、表情、反応等コミュニケーションの内容を具体的に記入する欄としています。また、実践した感想も記入することとしています。実践展開した際の記録とその際に感じたことの振り返りを意図しています。

(2) 「2. 科目ごとのレビューと実践展開の記録・感想」

- A欄 は、各科目において学んだことの整理及びこれまでの自分自身の認知症ケアを振り返り、学びと実践をつなげて考えることをねらいとしています。各科目において学んだことや実践してみたいことをレビューとして記入する等の活用方法が考えられます。実践してみたいことは、「生活支援のためのケアの演習1」で考えた認知症の人とコミュニケーションを行う上で実践してみたいこと以外の認知症ケア実践を考え、記入に設ける時間は10分程度を想定しています。レビューとは別としたり、宿題として記入したりすることも考えられます。

例)・アクティビティの評価方法について学んだ。自職場ではアクティビティを実施しているが、実施後に評価しているのかわからない。自職場では評価を実施しているのか調べ、AさんのQOLは上がっているのか知りたい。

・家族介護者の介護負担について学んだので、最近入所したBさんの家族と話をしてみたい。

- B欄 は、A欄 に記入した実践してみたいことを職場で実践した場面を思い出し、具体的に書き出す欄としています。また、実践した感想も記入することとしています。実践展開した際の記録とその際に感じたことの振り返りを意図しています。

(3) 「3. 職場実習で取り組みたい事例」

- 前期研修中に設定した実践してみたい認知症ケアを実践し、事例を収集してみて、職場実習で取り組んでみたいと思った事例を2つとその理由を記入し、職場実習へとつなげていきます。

例)「家に帰りたい」と訴えるAさんの事例に取り組みたい。

3. 「Ⅲ. 後期研修『学習成果の実践展開と共有』」

- 「記録と感想を書いてみて、今改めて気付いたことや疑問点」は、実践してみたいことを実践した結果、今改めて気づいたことや疑問点を記入する欄としています。実践してから時間をおいて記入することで、改めて気づきや疑問点等が生まれ、それを記録することで学びにつなげられることが考えられます。記入の時間は10分程度を想定しています。
- 「記録と感想を書いてみて、今改めて気付いたことや疑問点」を書いた後には、他の受講生と共有し、他の受講生の発言を聞いてさらに学びを深めることが大切です。自分自身の認知症ケア実践上の課題や取り組みの方向性を明らかにすることもねらいとしています。共有の時間は、30～40分程度を想定しています。
- 「2. 印象に残った他の受講生の発言と気付いたこと」は、共有した際に気付いたことや他の受講生の発言で気になったことを記入する欄としています。
- 他の受講生と共有した結果、職場実習で取り組んでみたいと思う事例を変更したい場合は、「職場実習の課題設定」の科目で再検討すること等が考えられます。

Ⅲ 指導の留意点

- オリエンテーション等の時間に、前期研修と後期研修の間に学習成果を踏まえた実践を行うこと等の説明をあらかじめしておくことが望まれます。
- ワークシートを記入する際は、全てのページにおいて倫理的配慮として、認知症の人及びその家族の氏名、地域名、生年月日、年齢等個人が特定される可能性がある情報は記号化するよう説明が必要です。
- 原則として、事例収集で協力を得る認知症の人は、職場実習で取り組む対象としますが、受講生の学びに合わせて柔軟に対応することが求められます。
- 職場実習で取り組んでみたい事例を考える際に、職場実習で取り組むことが難しいものを受講生が提案した場合は、ワークシートの欄外に記録しておき、実践者研修修了後に取り組むよう指導してもよいでしょう。